北九州市政、経済・金融記者クラブ同時発表

令和８年９月７日
北九州市環境局

報道機関各位

～地域の再エネを使いこなし、「北九州モデル」を全国へ～

日鉄エンジニアリング株式会社と「地域エネルギーの高度利用及び脱炭素化推進に関する連携協定」を締結！

北九州市では、令和８年９月７日に**脱炭素社会及び循環型社会の実現**に向け、日鉄エンジニアリング株式会社（代表取締役社長：石倭行人、以下「日鉄エンジニアリング」）と「地域エネルギーの高度利用及び脱炭素化推進に関する連携協定」を締結しました。

本協定では、本市の多様な地域エネルギー（洋上風力、ごみ発電等）と、日鉄エンジニアリングが有するエネルギーマネジメントの技術・ノウハウを掛け合わせ、地域で生み出したエネルギーを地域の中で最大限に活用する新たな仕組みづくりに取り組みます。

■ 再エネを「持つ」から、地域で「使いこなす」へ

北九州市が有するごみ発電や再生可能エネルギーと、日鉄エンジニアリングのエネルギーマネジメント技術を融合させ、エネルギーの需給を最適に管理する仕組みなどを検討します。これにより、再生可能エネルギーのさらなる有効活用やエネルギーの地産地消を進め、再エネを単に「持つ都市」から「使いこなす都市」への進化を目指します。

■ 脱炭素を地域の競争力に「北九州モデル」を全国へ

地域エネルギーを最大限に活用することで、エネルギーの地産地消や市内企業の脱炭素化を進めるとともに、企業が脱炭素電力を活用しやすい環境を整えます。

さらに、北九州市をフィールドに構築した地域エネルギー活用の仕組みを「北九州モデル」として確立し、新たなビジネスとして他地域へ展開することで、脱炭素と経済成長が両立する「稼げるまち」の実現を目指します。

【主な連携事項】

（１）市内エネルギーの有効活用および脱炭素化

北九州市は市内需要家や発電事業者などとの連携を支援し、
日鉄エンジニアリングは技術・事業面から以下の検討を進めます。

① ごみ発電電力等の利用高度化
② 蓄電池や空調制御などを含む総合的なエネルギーマネジメントの推進
③ ごみ発電とその他の再生可能エネルギー電源を組み合わせた「24 時間 365 日カーボンフリー電力」の実証に向けた検討
④ 市内の再生可能エネルギー電源を活用した電力購入契約（PPA）の推進
⑤ その他、地産エネルギーの域内有効活用および脱炭素化に資する取組

（２）水素・アンモニアの活用

脱炭素社会の鍵となる水素やアンモニアの導入･活用に向けた社会実装の検討を進めます。

※ 詳細は別紙「日鉄エンジニアリング株式会社プレスリリース」をご覧ください

■ 今後の予定

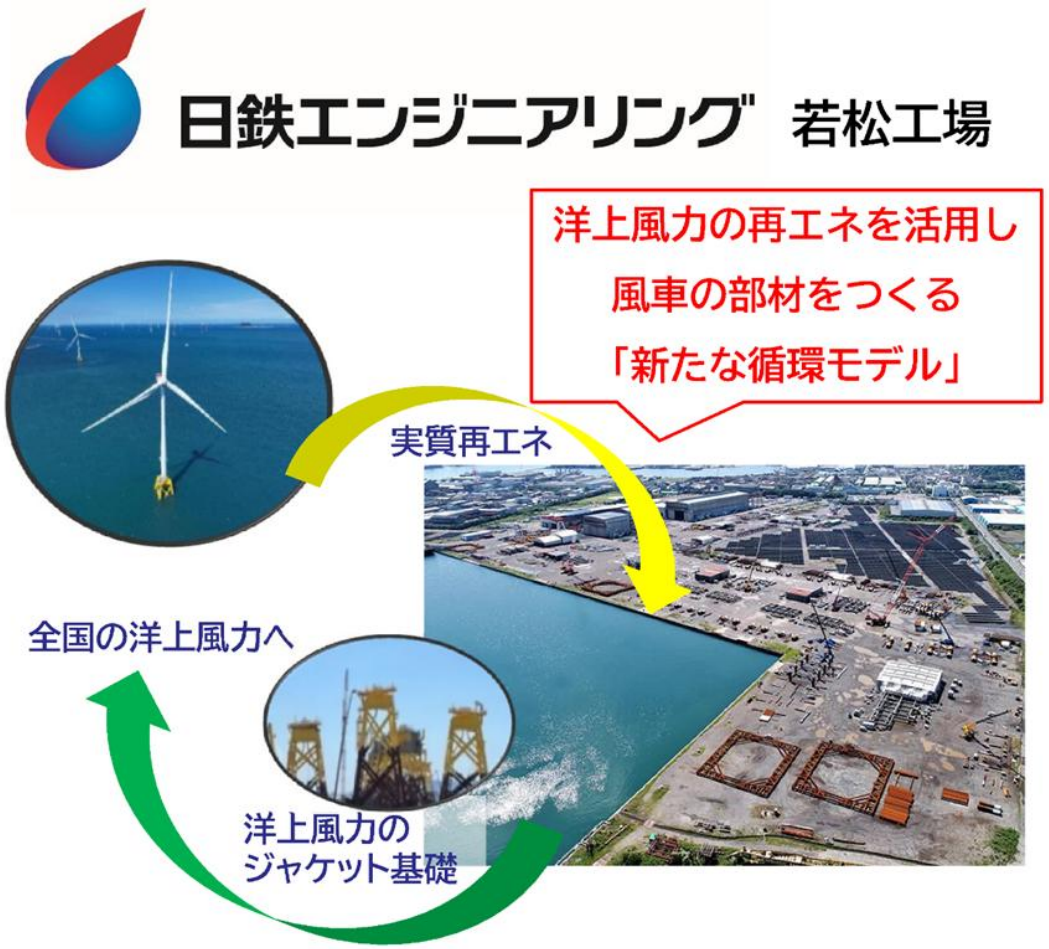
本協定に基づき、ごみ発電電力と再生可能エネルギーを組み合わせることで、「24 時間 365 日カーボンフリー電力（24/7CFE）（※）」の実現に向けた検討を進めます。

※ 24 時間 365 日カーボンフリー電力（24/7CFE）とは、
すべての時間帯において、再生可能エネルギーなどのカーボンフリー電源により電力を賄うことを目指す考え方。

【参考】日鉄エンジニアリング㈱若松工場における先行的な取組

本協定の先導的な事例として、洋上風力発電のジャケット式基礎の製作に携わった日鉄エンジニアリング(株)若松工場で、「北九州響灘洋上ウインドファーム」由来の非化石証書（トラッキング付）を活用し、工場の電力の脱炭素化を実現します。

本取組により、地元の洋上風力発電で発電された再エネで、地元の風車部材をつくるという「再エネの新たな地産地消の循環モデル」を構築します。



【問い合わせ先】
環境局再生可能エネルギー導入推進課
電話：０９３－５８２－２２３８
担当：玉井(課長)、本山(係長)